

キゴ山ふれあい研修センターでのゼミナール活動 ～複数の立場と視点から～

団体名●辰島ゼミナール / プレゼミナール

代表者名●辰島裕美（女子短期大学部経営実務科・教授）

はじめに(背景・目的・目標)

本稿は、地域の教育研修施設である金沢市キゴ山ふれあい研修センター（以下、センター）との協働で、ゼミ活動として学生が取り組んだ成果を報告するものである。4年目の活動は深まりと広がりがあった。

本年の学生が参加した活動は多岐にわたり参加学生数も増えた。また、単に教員が提示した活動に参加するのではなく、積極的に自分から企画案をセンターに持ち込んだり、センターとの打合せから関わったりするなど、主体性の向上が見られた。質量ともに向上した様子を紹介する。

参加イベント

- ・まちなかスターウォッチング in 星稜大学(5月)
- ・星見の日(5月～10月)
- ・キゴ山ネイチャーワールド(春)(5月)
- ・冒険王(8月)
- ・石川県立図書館スターウォッチング(9月)
- ・プラネタリウム聞き比べ(11月)
- ・よちよちプラネタリウム(3月)

活動の様子

2年次の学生が提案した「謎解きリアル脱出ゲーム」という企画が通り、春の「ネイチャーワールド」で子ども向けに実践することができた。子ども達に好評であったことから、夏の「冒険王」では、2回目として2年生がリーダーとなり、1年生が手伝う形で実施した。センターの広範囲にわたる部屋や廊下を使っ

てのゲームを手伝った1年生は、改善を考えて、次年度のイベントで実践できる形になった。

自分で企画を提案して実践したリーダーの姿に、主体的に関わることを下級生が学べた、良い機会であった。

よちよちプラネタリウムでは、子育てで多忙な家族にのんびり過ごせるよう、投映後に、ぬり絵や絵本を読む活動を企画した。

今回参加した学生は全員が初参加であった。企画案の提示から打合せに学生が参加し、積極的に関わる姿があった。

4日間の活動では、年齢月齢の違う子どもに対し、学生の人数が多き時は個別に相手をして、時間の一部分に絵本の読み聞かせを行った。安全に気を配りつつ、家族にホッとしてもらうことを目標にしたが、子どもの顔の

位置において視線を合わせて一緒に遊ぶことができ、親が嬉しそうだ子どもも安心する、という観察をした学生がいた。また、子どもの行動が予測できないので、柔軟な対応力が大切な活動であるという学生の意見もあった。

本年度の成果

多くのイベントに多数の学生が積極的に参加した。関わる人のそれぞれの立場によって目的が異なるが、準備から経験することで、俯瞰する視点が養われた。



写真：よちよちプラネタリウム